

日本の訓練／検定協力の取組等を少しでも多くの方にご理解いただくために、J-Skills Newsを発行します。

□ベトナム、カンボジアから7名が、日本で電気分野の技能評価研修 沖縄技能五輪も視察

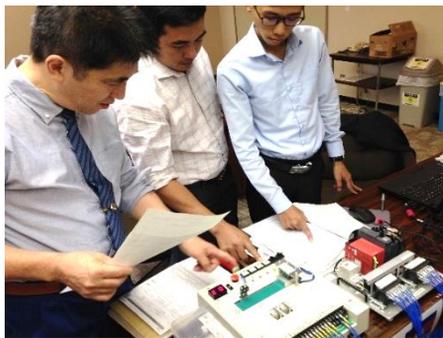
ベトナム、カンボジア政府の人材開発部局、訓練機関で電気分野の技能評価を担当する7名が10月29日に来日し、2週間にわたる実務研修に参加しました。

今年度のテーマは、電気分野。工場設備の自動化に不可欠なシーケンス制御作業の技能者は、日本では、技能検定を受検したり、技能競技大会で技を競って技能を習得しています。

ベトナムでは、自動化する工場ごとにこうした技能者を必要としており、シーケンス制御の技能者は不足しています。政府の職業技能基準に、機械加工に続いて、シーケンス制御も整備し、国家検定を導入することが望まれます。

カンボジアでは、工場の自動化は始まったばかりですが、シーケンス制御技能者の養成状況は、今後、工場の自動化を進めるかどうかの判断にも影響すると言われており、プノンペン主要国立訓練校では、シーケンス制御分野の訓練コースが人気です。

来日した研修生は、帰国後、本国で電気科の訓練指導に携わったり、人材開発行政の制度運営をする中で、技能評価の実務を定着させていきます。2年後のASEAN技能競技大会に向け、メカトロニクスや電工分野で選手の育成強化が進むことを期待します。



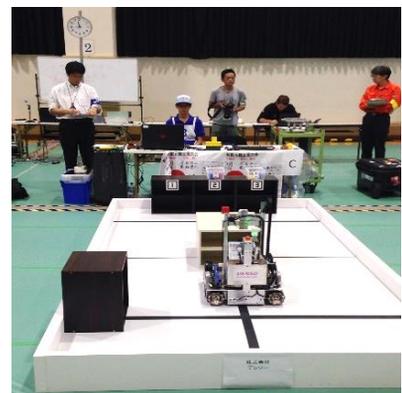
シーケンス制御実技研修の様子



シーケンス制御実技研修の様子



メカトロニクス視察



移動式ロボット視察

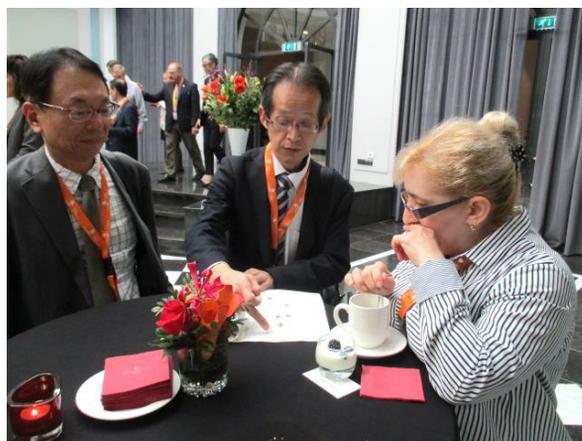
□2023年 技能五輪国際大会の日本招致に向けて

10月18日、アムステルダムで行われたワールドスキルズインターナショナル（WSI）総会で、日本は、2023年技能五輪国際大会の日本（愛知県）への招致立候補を表明しました。期間中、厚生労働省、愛知県、JAVADAの幹部が各国代表と個別に会談し、愛知県開催のメリットなどをアピールしました。フランスも同様に表明しており、立候補のメ切は11月23日、投票は2019年8月にロシアで行われる国際大会期間中に行われます。（厚生労働省）

（参考）worldskillsホームページ <https://www.worldskills.org/what/competitions/>
日本の技能五輪国際大会招致ホームページ <http://worldskills.jp/>



WSI総会で招致表明する上野厚生労働大臣政務官



アルメニアの公式代表に説明をする愛知県の中島就業推進監

□2017年度の日本の技能検定実施状況とりまとめ

技能検定制度は、日本政府が、実技試験と学科試験により労働者の技能を公証するしくみで、60年近くの歴史をもっています。

2017年度は、78.4万人が受検し、うち33万人が合格して「技能士」の称号を手に入れました。技能分野は現在、製造業、建設業、サービス業の130職種に及び、熟練技能をもつ1級、即戦力となる2級、初級レベルの3級などの等級に分かれています。2017年度に受検者が多かった職種は、ファイナンシャル・プランニングで、以下、機械保全、機械加工などが続いています。

1、2級の技能検定は、日本では、技能人材に重点をおく機械・電機メーカーや、公共工事の受注に技能者が必要な建設専門工事業者などに活用されており、3級については、工業高校や職業訓練校からも多く受検しているほか、技能実習制度により日本で働く外国人も3年目には、習得技能の評価を受けるため、3級の実技試験を受けることとされています。

SESPP事業では、日本の技能検定と同水準の技能評価を、アジア各国に定着させる活動を行っています。（厚生労働省）

（参考）厚生労働省報道発表資料 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00622.html

□ 研修レポート

■ カンボジアで、機械加工の技能評価に着手

2018年10月16日（火）～20日（土）に、国立カンボジア高等工科職業訓練校（NPIC）にて、旋盤3級の試験問題作りを実施しました。

受講者は、機械科があるITI（産業技術訓練校）、NPIC等から選抜された指導員8名、稲川文夫氏（元ハノイ工業大学技能者育成支援プロジェクト・JICAチーフアドバイザー）が講師を務めました。

日本式技能検定試験と同様のレベルにより、旋盤3級技能検定の学科試験問題と実技試験問題の作成方法を指導しました。研修を通じて、3グループで実技試験問題3課題、学科試験問題30問をクメール語で作成しました。

カンボジアでは、機械加工職種の技能評価は、電気分野に比べて、遅れてスタートしましたが、12月には旋盤の訓練技法セミナーを行います。今後、技能検定試験に立ち会う評価者が養成されると、日本式技能検定試験を行える水準になります。



講義の様子



試験問題作成の様子

■ ベトナムにおけるシーケンス2級技能評価トライアル

2018年10月23日（火）～26日（金）、ハノイ電気機械短大（HCEM）で実施しました。

評価者はHCEM（ハノイ電気機械短大）、HaUI（ハノイ工業大学）、SHTP（サイゴン・ハイテク・パーク訓練センター）から選抜された講師6名。技能評価トライアル受検者はミツバ、デンソー、ハナキャンズといった民間企業、HaUIやHIVC（ハノイ工業職業訓練短大）、ハノイハイテク短大からの10名。講師は、内山聡氏（(株)デンソー技研センター）です。

トライアル受検者10名のうち、学科は4名、実技は1名が日本の2級合格レベルに達していました。

評価者は、このトライアルを通じて、技能検定の運営や採点はもちろんのこと、公的な技能評価を行うにふさわしい心構えやその重要性の理解を深めることが期待されます。



学科試験のトライアルの様子



実技試験のトライアルの様子

□「本邦研修」受講生の声

二週間に渡って本邦研修に参加をされたベトナム・カンボジアの受講生の声をお届けします。

- ・今回の研修を自国の技能評価制度のプログラムに役立てたい。
- ・日本の教育レベルの高さを実感、高い知識を持つ講師の方々より研修を受けられた。
- ・カリキュラムの作成やアクションプランの構築を勉強できたことは非常に有意義だった。
- ・沖縄での技能五輪を視察して、日本の技能レベルの高さを実感できた。
- ・ビデオ放映による講師本人の実技試験問題の操作により、理解が一段と深まった。
- ・自国に戻ってから、学生のためのPLCカリキュラムコースの構築を実現させたい。
- ・動作チェックシートの疑問点が明確になった。
- ・PLCを使った実技試験問題作成演習にもっと時間がほしかった。

◆研修プログラム ※シーケンス制御 [4日間コース]

講義 (3時間)	技能検定試験 職種の概念・基準と細目 学会権問題解説 ペーパー試験問題解説
講義・実習 (4時間)	基準と細目に基づく実技試験問題解説 採点要領・動作チェックシートの解説
講義・実習 (3時間)	作業手順書による実技試験問題演習
講義・実習 (4時間)	実技試験問題の作成要点、作業要素一覧 実技試験問題作成演習 (オリジナル課題作成)
講義・実技 (7時間)	実技試験問題作成演習 (オリジナル課題作成) 動作チェックシート作成
講義 (7時間)	実技試験対策訓練コース開発 (5日間の訓練コースのカリキュラム作成)



ベトナムからの受講生
左から SHTPのKhoaさん、HCEMのPhongさん、
DVETのHaさん



カンボジアからの受講生
左から NPICのHengさん、NTTIのKrythさん、
PPIのVannyさん、MLVTのChanhouさん

発行：SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局（株式会社JTB 霞が関事業部）

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
TEL：+81-3-6737-9263 FAX：+81-3-6737-9266
担当：安藤・栗原・風見
E-mail：sespp@jtb.com